

さくべえ 作兵衛 (1688~1732)



篤農家。伊予郡筒井村(現、松前町)出身。「義農作兵衛」の呼び名でよく知られている。享保の大飢饉の際、種子の大切さを思い、麦種を食用とせず、麦袋を枕として、「私は餓死してもこの麦種によって、多数の生命を救うことができる」といって息を引きとった。その後、その麦種は村人によって大切にまかれた。人々からは、義農として追慕され、その功績は現在も語り継がれている。

略歴

貞享5(1688)年2月	伊予郡筒井村に生まれる。
享保17(1732)年	享保の大飢饉の際に麦袋を枕にしながらか45歳で永眠
安永5(1776)年	松山松平家第8代藩主・松平定静が、作兵衛の碑を建てて顕彰する。
明治14(1881)年	筒井及び近隣の村の有志が作兵衛のための神社建立を申請し、許可される(義農神社)

※ 享保の大飢饉

雨が5月から7月まで降りつづき、また、浮塵子が発生し、雑草まで食い荒らした結果、米の収穫は皆無。麦は2、3分の収穫で、百姓はわずかに蓄えていた雑穀で飢えをしのいだ。筒井村は重信川の氾濫で特に被害が甚大であった

(銅像：義農神社)

〈関連図書〉

- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第4巻 鍵谷カナ・下見吉十郎・義農作兵衛』
愛媛県教育会 1983年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
 - ・新井政義『愛媛県風土記』旺文社 1991年
- 〈ゆかりのある場所〉…(P286, 90)